

特定非営利活動法人 ピアソン会

第83号

2018.12. 5

ピアソン便り

発行人：吉田 邦子（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel: 0157-31-1215

ピアソン記念館内

AM.9:30 ~ PM.4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

北見市・エリザベス市姉妹都市提携50周年記念
相互訪問事前打合せinエリザベス市へ帰国報告

記念事業実行委員長（ピアソン会理事長） 吉田 邦子

前号で予告の「エリザベス市訪問」結果は、11月28日開催の第3回実行委員会で報告されました。訪問者は実行委員会の畠一雄委員長、許斐ナタリー監事、井上智之事務局長（市民環境部長）など。

今回、10月17日～22日の日程で、エリザベス滞在3日間は近郊在住の唯野則幸さん（北見出身）が通訳に当たりました。市役所・市長表敬訪問、トリニタス病院訪問、キーン大学訪問が中心となり、両者が懇談、検討を重ねる中で2019年の50周年記念相互訪問日程が決まりました。

◆エリザベス市から北見市訪問は2019・7・19（火）～22（月）。◆北見市からエリザベス市訪問は2019・10・21（月）～27（日）。



内容の細部は今後の協議により、今回の訪問受け入れ窓口は前回同様クリシュナ・ガリックさん、スタンレー・ネロンさんが当たり、過去長く窓口だった故サームイさんご一家との食事会も持たれたとのことでした。

訪問に先立って各団体から提示された計画や課題については概ね良い方向が見えていますが、具

体化されるまでにはまだ時間がかかります。

ピアソン会から提案していた中の一つ、栗原学園生徒によるビデオメッセージのサンプルが上映され、好評であったと報告されました。多言語での対応もあるので日本語でも良いが、英語であればよ

り多くに理解されます。ちょうど、タブロイド判のスペイン語新聞が市役所に届いていました。第一面に北見の訪問団が写真入りで出ていました。英語を理解できない人口も多く、その人たち向けの新聞のようでした。

写真上/姉妹都市エリザベス市市庁舎会議室での打合せ風景。中央右側にクリシュナ・ガリックさん、左側にスタンレー・ノートンさん。その下側に畠一雄実行委員長、ナタリーさん。

ピアソン会会員への
メッセージ

2018・10・25
よしだ くにこさん、
わたしから感謝をこめて……！
親切なお手紙ありがとうございました。



私たちは2019年に訪問するのを楽しみにしています！
みなさんがピアソン牧師の記憶を存続させていらつしやることに感謝しています。

クリシュナ・ガリック

映画会『ラブ・レター』の終了報告

第19回文化サロン de ピアソンの映画会が10月27日に開催され、14名の参加者が鑑賞しました。1998年に常呂と佐呂間でロケが行われた作品（浅田次郎の小説）で、クライマックスの場面では、涙を唆るシーンなどもありました。外国人労働者の日本での就労実態の先駆的な作品ということもあり、現在国会で論議されている「外国人労働の就労実態」が、正しく報道されているのか、また正しく理解されているのか、考えられる作品でした。





写真右／北海道遺産認定証の授与記念撮影。写真左／ピアノン学園北見幼稚園の園児たち。



北海道遺産交流！

北海道遺産交流会議の「北海道遺産サミット」が11月1日(休)、札幌のポールスタールホールを会場に開催されました。当会からは中山理事と伊藤理事が参加し、「平成30年度助成活動報告」をしてきました。その後、北海道遺産第3回選定の選定証授与式が行われ(今回の選定は15件)、これで北海道遺産は全部で67件になりました。高橋はるみ北海道知事も来賓で出席し、今後の北海道観光への期待を述べていました。

オーナメント製作！

昨年から実施のピアノン邸での復刻クリスマスツリー展示のための、幼稚園児による手作りオーナメントの製作講習が11月8日に北見幼稚園で行われました。

今年も、昨年の倍の園児、約40名の参加がありました。上の写真のように2種類のオーナメントを作りましたが、どれも見事な出来栄でした。12月5日にツリーに飾り記念館で展示します。

各種話題と近況報告！

写真下／天内工務店社員の方々による清掃ボランティア。



ボランティア清掃
ありがとうございます！

ご存知でしょうか？ ピアソン記念館斜め向かいにある「(株)天内工務店」社員の有志が、ピアソン記念館・あるいは周辺道路の枯葉清掃などボランティアでの清掃をしてくださっています。

また、ピアソン記念館で大きな行事があるときには、記念館駐車場が手狭なこともあり、会社の来客用駐車スペースを貸してもらったりなど、普段から記念館への協力をいただいております。また、ピアソン夫妻の文学記念碑(前庭にある石碑)も天内工務店からの寄贈でした。今後ともよろしく！

響く歌声！

アマリア(ルーミアア出身)さんが、男の子テオ君6歳と来館された。札幌の酒井さんも同行しており、1階展示のリードオルガンを見つけ、興味津々!。「もしよろしければどうぞ弾いてみてください」と勧めると、アマリアさんが歌手であることが明かされ、今晚コンサートがあるのだという。「ぜひ一曲!」とお願いすると美しいソプラノでルーミアアの伝統民謡を歌ってくれました。アマリアさんは、リードオルガンの音色がすごく素敵であると感心していました。



写真右／歌うアマリアさんとテオ君。オルガンは酒井さん。

オメデタ！

当ピアノン記念館英語音声ガイドダンスのアナウンスに協力していただいた木島夫妻が結婚記念日に来館しました。アリスンのお腹が幾分大きくなっているのに気付きお聞きすると、満面の笑顔で「オメデタ!」とのこと。早速写真撮影をお願いし皆様に「お知らせ」する許諾をいただき、ここに報告いたします。おめでとございませう！



写真左／オメデタを報告してくれた木島夫妻。

100種のことなら、よっしーへ!!
めがねのよっしー
TEL:0157-57-3664
定休日：毎週水曜日
営業時間：10:00～19:00

「ニュージールランドからの便り」第14回

～ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏～



*2018・10・23

◆こちらは美しい春の日和です。ジャガイモが芽を出し成長し、庭の小さな池にはピンク色の睡蓮が初めての開花です。

◆先週弟が来ました。オークランド博物館でボランティアガイドを続けています。館では最近、第一次世界大戦終結百周年を記念し犠牲者を追悼する特別行事を開催しました。一万八〇〇〇名を超えるニュージールランドの戦死者一人一人の名前を記した十字架が戦争記念博物館前の芝生に据えられました。ある家族は3人も、4人もの息子たちを戦死させたと弟が話していました。当時のニュージールランドでは、人口は現在よりもずっと少なかったです。

◆日々漢字の書き方や学びを続けています。今日は貨幣、弊害、投影、貫徹、熟慮などがあり、徹頭徹尾を含む表現は、「最後までやり遂げる」と言いたい時には大いに役立つ言葉のように思います。現在、あまり馴染みのない、複雑な文字に取り組んでいます。常用漢字を終えたら、篠原先生や皆さんと共に

に学んだ固有名詞や「漢字の復習に取りかかる予定です。思うに、当時のとても有益な価値ある学習が自分の日本語読解力を大きく伸ばしてくれました。初期の入門書などを手にすれば楽しさとの再会になることでしょう。」

*2018・11・7

◆北見ではもう晩秋の色彩でしょうね。ここは春の好天です。 ◆職人さんたちがキッチンの修復作業中です。しばらく時間がかかりそうなので、始めてよかったです。完了までに一週間かそこらかかりそうです。

◆今朝の漢字は墳、崩壊、お嬢様、休憩、記憶などです。漢字は興味ふかく、役立ちますが複雑で、書くのも細部を覚えるのも難しいです。

*2018・11・15

◆キッチンの床修復は水漏れのダメージなのでしばらくかかりそうです。新しいタイルが明日から敷かれます。

◆今年の早い頃、弟とウエリントンへ行った帰りにハット・ヴァレーにあるタイタ霊園を訪ねました。

曾祖父父母の両親ウイリアムとエマ・カークのお墓を探すためでした。弟がインターネットで調べ、二人がその霊園に埋葬されているのがわかり



ました。とても広い、古い墓苑なので、多くの墓石が放置されていますが、墓地管理者の手助けで、私たちは探すお墓を見つけれました。しかしながら、重い墓石はうつ伏せで、墓碑銘は完全に見えない状態でした。地域の墓碑彫刻師会社に墓石の再建を頼み、作業は数ヶ月かかって完成しました。昨日、弟から修復された墓石の写真が届いたので転送します。

◆エマ・カークは初代メソヂスト宣教師ジョンとジェーン・ホップスの娘です。彼女は、ニュージールランド生まれの最初のヨーロッパ系幼児の一人です。エマと夫のウイリアム・カークも宣教師で、最初の任地はワンガヌイ・リバーの上流オヒネムツ、隔絶されたような辺鄙なところでした。ウイリアム・カークはニュージールランドの様々な地方で宣教師をしていたので、その人たちのためにも、判読可能な碑文の墓碑再建は適切であったと思います。私たちもそのうちに再訪したいものです。

◆春の心地よい陽光でジャガイモはよく成長し、睡蓮のピンク色が我が池でまた開花しました。北見の友人方によくお伝えください。



クリスマスリース製作講座修了!

11月25日(日)に、午前の部、午後の部に分けての「クリスマスリースを作ってみよう!」制作講座を開催しました。今年で3年目になるこの講座には多くの市民からの期待が寄せられており、すぐに定員がいっぱいになる講座です。

中には3年連続の受講者もあり、毎年自宅に飾るリースとして、家族からも応援を受けて受講しているようです。本年は少し大きめのリース作りに挑戦していただきました。最近市内各所でリース製作講座が開催されるようになり、『手作りの良さ』が再認識されてきたようです。

室内コンサート Gifts of Sanctuary 終了報告

第20回文化サロン de ピアソンのコンサートが10月14日(日)に開催されました。ボーカル Mihalu さん、キーボード奏者遠藤真寿美さんによる「アメーzingグレイス」など、ゴスペルを中心としたコンサートでした。54名の来場者があり超満員でのコンサートになりました。演奏ではピアソン夫妻愛用のリードオルガン(1878年製)での演奏もあり、来場者は秋の夜の音楽会を大いに満喫している様子でした。



ピアノン夫妻資料収集記

(4)

ピアノン会理事 玉置 義弘



ことになりませう。

今回の調査で、ピアノン宣教師のパスポートの申請書類が3通見つかりました。1884年、1913年、1922年に申請したのですが、1884年はプリンストン大学を卒業してペンダリ

前回のピアノン便りにアイダ・ゲツプの二人の弟について書きましたが、下の弟ルドルフに1920年8月20日生まれの娘アリス・パトリス・ゲツプ Alice Patrice Goepf がいたことがさらに分かりました。彼女はフィラデル

フィアに住み、2007年3月19日に亡くなった事が記録に残っていました。日本から帰国したピアノン宣教師夫妻はフィラデルフィアに住み、アリスの父親の医師ルドルフのところでピアノン宣教師は亡くなっていますので、宣教師夫妻の日本からの帰国後の生活を間近に見ていた可能性があったと思われませう。また以前にも書きましたが、ピアノン宣教師が亡くなったのは、アイダ・ゲツプの「兄」ではなく、「弟」ルドルフの所であると、今までの記録が訂正される

モリス・アカデミーの校長の退

消息・動静

ピアノン、G・P

職ならびに校長不在の学校の将来的な不安のため、私はモリスタウンを離れ、エリザベス市(ニュージャージー州)のピングリー・スクールで用意された職を受け入れました。ピングリー・スクールでは、2年間、主に一般教養を教えられました。大学卒業直後の立場から考えると、教育者続ける運命であると知ることは全く嫌な気がしないものです。しかしながら、私は今年の秋にはプリンストン神学校に進むつもりであり、将来は……

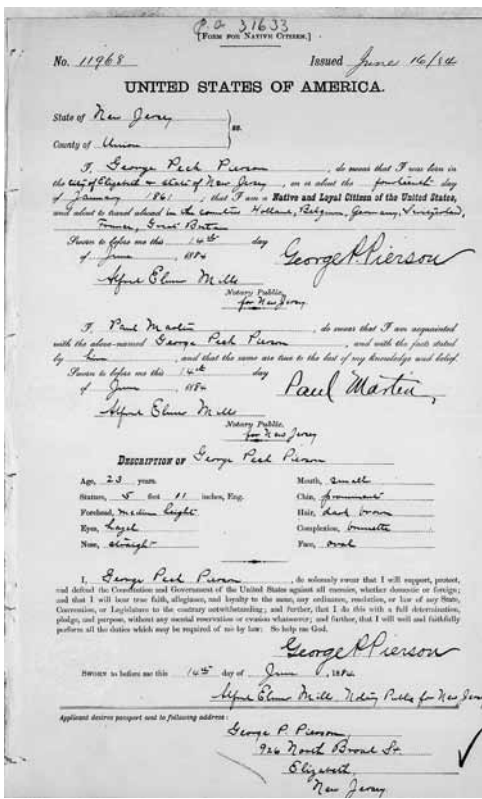
を気どり、明るい現地人とふれあう中で、生粋のドイツ人のように生活をしました。ほんのわずかだけオランダ、ベルギー、スコットランドを訪れ、ロンドンにはかなり滞在しました。「最終的には」米国で、恒久的に生活することになった。文筆家として、米国の文学者数人の伝記を編集することに、私の人生最大の努力を払ってききました。

※注 『ヘルマンとドロテア』

『1797年に刊行されたゲーテの恋愛叙詩。ドイツの純朴な青年ヘルマンと、フランス革命によって国を追われてきた少女ドロテアとが出会い結ばれるまでを、市民的節度を賞揚しつつ描いている。古典主義時代のゲーテの代表的作品であり、発表当時からドイツの市民層で広く読まれた』

私は、昨年1年分の給料の半分を費やし、昨年の夏(休み)の間じゅうヨーロッパへ行き、大半をドイツのゲッティンゲンで過ごし、『ヘルマンとドロテア』(※注)

『1797年に刊行されたゲーテの恋愛叙詩。ドイツの純朴な青年ヘルマンと、フランス革命によって国を追われてきた少女ドロテアとが出会い結ばれるまでを、市民的節度を賞揚しつつ描いている。古典主義時代のゲーテの代表的作品であり、発表当時からドイツの市民層で広く読まれた』



写真/1884年6月14日発行のパスポート。

モリス・アカデミーを辞めた理由が書かれてあり、ピングリー・スクールで教えながら、文筆家を目指していたような節が窺われますが、神学校への進学を表明しながらも将来については曖昧にしています。もしかするとこの頃には、宣教師として海外で活動する決心をしていたのかも知れませう。

またこの時期のパスポートに顔写真は添付されておらず、代わりに人相書きが詳しく書かれており、身長は8フィート15インチ(約180cm)、瞳の色はヘーゼル(明るい茶色)、髪の色はダークブラウン、顔の形はオーバル(楕円形)などと書かれていました。180cmの身長はアメリカ人としても長身の方だったのではないでしようか。(つづく)

編集後記

来年、ピアノン宣教師の故郷エリザベス市との姉妹都市提携50周年記念行事を行うため、エリザベス市を訪問していた訪問団報告会が11月28日になりました。いよいよ本格的な冬に向かう時期となりました。10月から11月にかけては、毎日枯葉清掃に追われていますが、これからは除雪の心配をしなればなりません。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟